

経済学部経済学科通信教育課程

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部経済学科通信教育課程では、経済学部通学課程のカリキュラムと同等の教育課程を、社会人や障がいをもつ学生など、多様な学習ニーズを持つ在籍者に提供している点が大いに評価できる。

こうした教育の実現のために、経済学部の専任教員が授業科目を担当し、学生相談室や学生支援室など関連部署とも密に連携をとりながら学修支援に取り組んでいる点も高く評価できる。

自己点検やシラバスの第三者確認、授業改善アンケートの実施、GPAやGPCAなどのデータの共有も行っており、カリキュラムの評価や改善に向けた議論を進める土台ができていると言えるだろう。

今後は、こうした基礎データを活用し、生涯教育に焦点をあてた通学課程とはまた違った教育内容や方法を、必要に応じて開発し導入していくことが期待される。

また、学生への個別対応の量や質が、通学課程以上に要求されることが推測され、それを十分に提供していく体制を安定的に維持するためには、通信教育課程に専任教員を置くことを検討すべきだろう。この点については大学全体の課題であると認識する。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

経済学部経済学科通信教育課程では、経済学部通学課程のカリキュラムと同等の教育課程を、社会人や障がいをもつ学生など、多様な学習ニーズを持つ在籍者に提供していくために、経済学部の専任教員が授業科目を担当し、学生相談室や学生支援室など関連部署とも密に連携をとりながら学修支援に取り組む努力を継続している。

自己点検やシラバスの第三者確認、授業改善アンケートの実施、GPAやGPCAなどのデータの共有を含め、カリキュラムの評価や改善に向けた議論を進める土台を固め、こうした基礎データを活用し、生涯教育に焦点をあてた通学課程とはまた違った教育内容や方法(メディアスクーリングの充実等)の検討を継続している。

この場合、学生への個別対応の量や質が通学課程以上に要求されることが推測されるため、それを十分に提供していく体制を安定的に維持するためにも、通信教育課程に専任教員を置くことの検討は引き続き今後の課題となっている。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

学士(経済学)

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して学位(学士(経済学))を授与する。

- 1. 知識・理解
 - (DP1) 経済学の基本的な知識を体系的に理解している。
 - (DP2) 経済学と、その周辺分野の専門知識を、過去、現在、そして、未来の社会に生きる人々の営みと関連付けて理解している。
- 2. 汎用的技能
 - (DP3) (数量的スキル) 自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
 - (DP4) (論理的思考力) 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<ul style="list-style-type: none"> ○ (DP5) (問題解決力) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 ● 3. 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ○ (DP6) 自己の存在を理解し、社会の一員として高い倫理観と責任感をもち、社会の発展のために自律的、主体的、協調的に行動できる。 ● 4. 総合的な学習経験と創造的な思考力 <ul style="list-style-type: none"> ○ (DP7) 身につけた教養と専門知識を総合的に活用し、現代社会を全体的、かつ創造的にとらえることで新たな課題を発見し、その解決によって社会に貢献できる。 ● 5. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ○ (DP6) 多文化・異文化に関する知識を理解している ○ (DP7) 人類の文化、社会と自然に関する知識を理解している ● 6. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> ○ (DP8) (コミュニケーション・スキル) 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる ○ (DP9) (情報リテラシー) 情報通信技術 (ICT) を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる 	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu	

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) を記入してください。
<p>学士 (経済学)</p> <p>本学部の教育課程は、通学課程と同様であることを原則としている。ただし、多様な学習ニーズを持つ通信教育課程の学生に配慮し、通信教育課程独自のカリキュラムを編成する。</p> <p>さらに、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態を提供する。</p> <p>ディプロマ・ポリシー (DP) に謳う能力を4年間の教育課程において涵養するために、教育課程の編成に際して、教育目標・育成方針に従い、以下の原則をおく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (CP1) バランスのとれた科目区分 カリキュラムを「一般教育科目」「保健体育科目」「外国語科目」「専門教育科目」の区分にて編成する。 ● (CP2) 学力三要素の均斉成長 「一般教育科目」「保健体育科目」「外国語科目」は、本学部の教育目標を達成するために、すべての学生に共通の科目編成とすることを原則とし、初年次より受講可能なよう提供する。 ● (CP3) スクーリング 対面授業や情報技術を活用したメディア授業の実施により、課題解決のために知識・技能を多面的、総合的に活用する能力を涵養する科目を配置する。 「専門教育科目」では、次の方針をもって科目編成を行う。 ● (CP4) ブリッジング 高等学校での知識と学問としての経済学の間を橋渡しを行う科目を初年次に設ける。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<ul style="list-style-type: none"> • (CP5)積み上げ式 初年次より学年が進行するにつれて、基礎から応用へと積み上げが可能なように科目を配置する。 • (CP6)体系的性 各学科の教育目標を達成できるよう、各学科の専門科目を体系的に学修可能なように編成する。 • (CP7)分野・研究テーマ志向型 学生各々が抱く問題意識、あるいは、卒業後のキャリアイメージを、学生が追求可能なよう分野別編成する。 <p>AP、及び、DPにおける各科目区分の役割は、次の通りである。なお、DPとの関係については、補足資料（カリキュラムマップ）に詳細を示す。</p> <p>■ 専門教育科目の編成と学科の特色 [API、APII、APIII、DP1、DP2、DP3～DP5、DP7] 「専門教育科目」に対しては、上記の通り、(CP4)から(CP6)の教育課程編成方針がある。(CP4)は、アドミッション・ポリシー（AP）で求めている第1カテゴリー（API）の学力からディプロマ・ポリシーが求める能力（特に、DP1とDP2）への道案内をしていくとともに、アドミッション・ポリシー（AP）で求めている第3カテゴリー（APIII）を補完するための教育課程編成方針である。</p> <p>また、(CP5)と(CP6)は、アドミッション・ポリシー（AP）で求めている3つのカテゴリー（API～III）の学力を、ディプロマ・ポリシーの「知識・理解」に謳う能力DP1とDP2、「汎用的技能」の中でもDP3～5、そして、「総合的な学習経験と創造的な思考力(DP7)」の能力へと最終的に導くための教育課程編成方針である。そして、(CP6)は、学科毎に学科の教育目標に応じて経済学の分野をいくつかに分けた科目群を明示することを意味する。</p>	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu	

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①単位制度の趣旨に沿った単位の設定を行っていますか。	はい
-------------------------------	----

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学通信教育部学則」第30条（年間履修単位の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.4④シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
【根拠資料】	
【検証体制及び方法】 授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認	
【根拠資料】 特になし	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学通信教育部学則」第32条（既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学通信教育部学則」第29条（卒業所要単位）に基づき、卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、あらかじめ学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程表 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html ・ カリキュラムマップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf ・ カリキュラムツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf ・ スクーリング開講科目一覧 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/media-subject.html 	

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。	
<p>経済学科</p> <p>経済学科では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の3つのポリシーに照らして、下記のとおり検証を行い、教育の継続的な改善を行う。</p> <p>教育課程におけるアセスメント・ポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学段階において、志願書の学習歴・職務経歴、課題である書評や志望動機（「入学後何を学びたいか」）、出願時アンケート調査等を用いて、アドミッション・ポリシーで求める能力・意欲が身についているか測定を行う。 2. スクーリングでの取り組みや、メディア教育でのレポートの評価等を通じて、主体的、自主的、能動的な学修態度や、学部課程で求める思考力、判断力、表現力が身についているか測定を行う。 3. 外国語の授業の成績評価等を通じて、国際通用性が養われているかの測定を行う。 4. 単位修得状況、成績評価、授業における学習・研究活動の発表、論文執筆等の教育ならびに研究成果の実績・評価等を用いて、経済学部が求める専門知識・能力が身に付いているか測定を行う。 5. 卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーで求める必要な能力が身についているか測定を行う。 6. 卒業時アンケート等を用いて、「自由を生き抜く実践知」が身についているか検証を行う。 <p>科目ごとのアセスメント・ポリシー</p> <p>科目ごとの学生の学修成果については、シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき、「到達目標」に掲げる知識、能力が身についているか測定を行う。</p>	
1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

の学習成果を把握していますか。	
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・ポリシー https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/seika_hoshin/tsushin/ ・カリキュラムマップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf ・カリキュラムツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf 	

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、学部・学科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。	
【教育課程・教育内容】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と関連性の検証 ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。） 	
【教育方法】	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等） 	
【学習成果】	
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用 ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み。 ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み 	
特色	学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供
<p>多様な背景を持った在学生在が多いのが通信教育課程の特徴であるが、在学生のニーズを正確に把握するために学生アンケートの集計結果を活用している。これは受講形式としてメディアスクーリングの拡充を目指すことなどの方針決定に寄与しており、教育効果を高めるための工夫かつ長所である。</p> <p>成績評価基準の変更とGPA制度の導入により、公平で信頼性のある評価を実施する努力もしている。</p>	
その他、上記項目以外で学部・学科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし	
課題	
特になし	

2 学生の受け入れ

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。	
<p>「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放する。学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学べる環境を整備する。</p> <p>高等教育機関であることを前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲をもった人材を受け入れる。</p> <p>求める人材像は、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1. 知識・理解、技能 [API] <ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 高等学校で学んだ主要教科・科目について、教科書レベルの知識をもっている。 ○ (2) 自身の考えを日本語で他者にわかりやすく文章表現することができる。 ● 2. 思考力・判断力・表現力 [APII] <ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 課題解決のために知識・技能を多面的、総合的に活用できる。 ○ (2) その考察をまとめることができる。 ● 3. 関心・意欲・態度 [APIII] <ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 世の中の現状を経済という観点から考えることに関心をもち、それを学修や行動に移すことができる。 ○ (2) 知的好奇心をもって、入学までに培った基礎学力をさらに広げ・深めていこうとする向上心をもっている。 ○ (3) 経済学を中心に、政策、法律、歴史、科学、思想、文学、言語などの幅広い分野にわたる教養を身に付け、それらを経済学の専門知識と結びつけて自分の世界を広げていく。 ○ (4) 論理的思考を修得しようとする。 ○ (5) スポーツ、文化的活動、ボランティア活動、資格取得など、大学内外、国内外における学びのフィールドを有機的に結び付けて、自分の学びをデザインしていく行動力をもっている。 ○ (6) 高い倫理観をもっている。 ○ (7) 生涯にわたって学び続ける意欲を持っている。 <p>出願書類および、場合によっては面接によって、「1. 知識・理解、技能」、「2. 思考力・判断力・表現力」、そして、「3. 関心・意欲・態度」の3つのカテゴリーについて、すべての力を総合的に評価する。</p> 	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/admission.html#menu	

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。
<p>学生募集および入学者選抜結果については、毎年度「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が現状と課題を教授会にフィードバック</p>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

クしている。志願者選考等は通信教育課程主任/学務委員が実施・検証している（通読判定と呼んでいる）。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	はい
---	----

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表 1

学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.1①教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
--	----

3.1②専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。

大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部・学科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。

<p>【学生支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導
--

特色	成績不振の学生の状況把握と指導
----	-----------------

通信教育部学生は全国に在籍し、通学課程の学生のように毎日通学し、接触があるわけではない。しかし、スクーリング時なども含め、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会との連携をはかり、問題・相談に対応している。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

その他、上記項目以外で学部・学科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。
特色
特になし
課題
特になし

Ⅲ 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。	
年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを検討し、学生のニーズの把握に努める。	
達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	アンケート調査の結果は、教授会の回覧資料として、経済学部の教員が閲覧している。
	改善策	本通信教育課程の入学理由として、生涯学習を挙げる学生もおり、かなり少数ではあるが、生涯学習を目的とした学生も現行のカリキュラムの下で受け入れていると見られる。しかし、生涯学習に適合したカリキュラムが十分ではない。生涯学習への更なるカリキュラムの充実に関して、その関心が教員間で必ずしも高くない。教員間でのこの点に関しての関心をさらに喚起する工夫が必要と思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	アンケートによって学生のニーズをきちんと把握できており、それに対する改善策も提示できていますので評価は相当と思われます。
	改善のための提言	学生のニーズを踏まえて生涯学習の観点から具体的な改善策の教員間での議論が次のステップと思われます。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。	
年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。	
達成指標	学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2023 年度における初年次教育の検討と情報科学系の通教共通科目の導入に際して、通教課程のカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの確認、通学課程のカリキュラムマップとの対応関係を、学務委員の方で、再度確認、検討した。その結果の一部を教学・人事政策委員会および教授会で共有を図った。
	改善策	現在の通教課程のカリキュラムに、大部分で、現在のカリキュラムマップおよびツリーは、適合していると思われる。引き続き、カリキュラムの見直しを継続する必要がある、それに併せて、カリキュラムマップお

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		よびツリーの更新が継続して行われる必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムツリーとマップの趣旨を十分に踏まえて対応できておりますので評価は相当です。
	改善のための提言	今後も同様に改善のサイクルが継続されることを期待いたします。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
	年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。
	達成指標	メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生アンケートで要望の多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を継続的に増やしている。新たに「経済学特講」がメディアスクーリングの授業として開講された。
	改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生のニーズに応じてメディアスクーリングを充実できていることは高く評価できます。
	改善のための提言	今後もメディアと対面のスクーリングのバランスに配慮しながら、スクーリング授業の充実を進めてください。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
	年度目標	学生の間で、カリキュラムツリーの周知が不十分であるため、認知度を上げ、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを学生の履修支援により役立てる。
	達成指標	春・秋の学習ガイダンスにおける教員の講演において、カリキュラムツリーを明示し、カリキュラムツリーを用いた履修計画の例示などを行う。カリキュラムマップの紹介を通じて、大まかな科目の性格付けも学生に認知してもらおう。加えて、教員による指導（スクーリング時のオフィスアワーの指導も含めて）の際にも、カリキュラムツリーを意識した履修計画を学生に促す。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	春・秋の新入生学習ガイダンス（教員講演）をオンラインで行った。春、秋ともに、時間の制約があり短い時間であったが、カリキュラムマップの読み方の紹介を通じて、個別科目の大まかな性格付けを確認できることは伝えた。カリキュラムツリーを用いた履修計画の例示までは行えなかった。教員による指導（スクーリング時のオフィスアワーも含めて）の際に、カリキュラムマップ・ツリーを用いた指導を促すことをあまり周知できなかった。
	改善策	次年度以降の初年次教育の具体的な実施方法および計画策定を通教全学科で行った。経済学科としては、新入生学習ガイダンス（教員講演）の

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		<p>拡充で行うこととした。そのため、学習ガイダンスの内容のスライドショーのサンプルを作成した。そこで、文献引用の仕方、レポート作成の仕方などについて指導内容を盛り込んだ。これに加えて、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを用いた履修計画の例示も含めるべきと思われる。教員による履修指導に、カリキュラムマップおよびツリーを活用するよう周知がさらに必要と思われる。</p>
<p>質保証委員会による点検・評価</p>		
	<p>所見</p>	<p>短い時間制約の中でオンラインを通じて学生にカリキュラムマップの直接説明が出来、学生の学習計画の指針を示せたことはとても評価できます。また履修計画の例示を含めるべきという改善点も把握できておりますので、次年度に繋がる適切な点検ができています。</p>
	<p>改善のための提言</p>	<p>履修計画の例示を限られたガイダンスの時間制約の中でどのように示すかは難しいですが、学生がいつでも参照できるように通教 LMS や法政通信などの利用も検討してみてください。</p>
<p>評価基準</p> <p>教育課程・学習成果【学習成果に関すること】</p>		
<p>中期目標</p> <p>継続的な学習推進。</p>		
<p>年度目標</p> <p>ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。</p>		
<p>達成指標</p> <p>ガイダンス実施報告。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。</p>		
<p>年度末報告</p>	<p>教授会執行部による点検・評価</p>	
	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
	<p>理由</p>	<p>ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後にオンラインで実施できた。通教課程での学びについて新入生に理解を深めてもらえたと思われる。</p>
	<p>改善策</p>	<p>新入生学習ガイダンス（教員講演）において、初年次教育の主な内容である文献引用の仕方、レポート、及び論文の作成の仕方に関する指導に加え、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを用いた履修計画の例示なども含める必要あると思われる。これにより、新入生に、経済学科のカリキュラムの全体像を大まかに把握させ、本人の経済学科での学習に関するイメージに近い履修計画が策定できるとと思われる。</p>
	<p>質保証委員会による点検・評価</p>	
	<p>所見</p>	<p>継続的な学習推進という目標に対してオンラインを有効に活用してステップアップ型学習ガイダンスをできているので、目標は十分に達成できています。さらに問題点に対する改善の方向性も明確で適切に点検できています。</p>
	<p>改善のための提言</p>	<p>履修計画の例示については、2, 3のパターンを用意して、例示の履修を修了するとこのようなスキルやアカデミックな考え方を身につけることができる、という形で示せると学生のモチベーションを高められると思います。</p>
	<p>評価基準</p> <p>教育課程・学習成果【学習成果に関すること】</p>	
	<p>中期目標</p> <p>カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。</p>	
	<p>年度目標</p> <p>現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。</p>	
<p>達成指標</p> <p>学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。</p>		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	まず、この取り組みの前段階として、学生間でのカリキュラムツリー・マップの認知度が低いため、カリキュラムマップ・ツリーの認知度を挙げる必要がある。新入生学習ガイダンス（教員講演）などで部分的にカリキュラムマップの活用を行った。2年生以上の学生に関して、カリキュラムマップ・ツリーの認知度を向上させることは十分でないと思われる
	改善策	新入生学習ガイダンス（教員講演）などで、履修及び履修計画の策定に、カリキュラムマップ・ツリーを網羅的に活用するよう促す。2年生以上に関して、履修などに、カリキュラムマップ・ツリーを活用促し、個別科目のカリキュラム上での大まかな性格を理解できるような工夫が必要と思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1年生のガイダンスの中でカリキュラムツリーとマップの紹介ができており、2年生以上の認知度が低いことも把握できていますので、適切に点検評価ができています。
	改善のための提言	カリキュラムツリーやマップは従来の大学での学習イメージを持っている2年生以上の学生にはなじみのないものと思われるので履修計画の中での有効性をアピールすることが大切です。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	年度目標	アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。
達成指標	通教主任と学務委員会委員による通読判定時、アドミッションポリシーを意識した選考を実施及び教授会への報告・承認。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。身体・精神障がい者も多く入学するため、該当者に対する事前相談・面談の流れも構築している。
	改善策	身体・精神障がい者に対する事前相談・面談制度については具体事例を積み重ねることで改善を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通教は通学課程よりも多様な学生が応募してくるため、入学前後のきめ細かいケアは簡単ではありません。その中で、応募者が持つ疑問や不安に応えるしくみはできていますので評価は相当です。
	改善のための提言	個別事例を記録して引き継いでいくことで経済学科の組織として経験を積み上げていくことを継続してください。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
	年度目標	通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、通教授業編成委員会の設置・開催を含め、教授会執行部との連携をはかる。
達成指標	各種委員会体制（委員会名簿）。	
年度	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

末 報 告	理由	通教授業編成委員会を活用しながら、通教主任 1 名と学務委員 1 名が連携することで通教学務を円滑に回すことができたと思われる。
	改善策	通教主任と学務委員の 2 名の連携を強め、効率的かつきめ細かな対応を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通教を担当の複数の教員で組織的に運営できており、十分に目標を達成できている。
	改善のための提言	効率的、効果的に運営しながら、学部の教員全体での情報共有やコミュニケーションも今まで通り継続してください。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
年度目標		通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。ここ数年来、専任教員の教科担当者の定年退職が続いているため、これら教科の専任教員担当者の充足に努め、それら科目の開講を維持する。
達成指標		通信教育課程経済学科科目担当者表。
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通信学習科目については専任教員が教科担当者となり、組織として通信教育課程の質を維持している。
	改善策	通学課程と通信教育課程のカリキュラムを照らし合わせて教員組織の質を担保できるように努める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	専任教員が科目担当者として携わることで組織的に教育の質が維持されており、評価は相当です。
	改善のための提言	引き続き教育の質が保たれるように組織的に教員間の連携を維持してください。
評価基準		学生支援
中期目標		夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
年度目標		スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程でできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。
達成指標		学生相談記録。
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	身体・精神障がい者や疾病を持った学生が多く在籍しているため、スクーリング時には学生相談・支援室（カウンセラー・精神科医含む）と通教主任、通教部長、教授会執行部と連携し、問題・相談に対応する体制が整えられている。
	改善策	障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	多様な学生を受け入れて、ケアが簡単でない中でも、学生相談・支援室と連携しながら学生をケアできているので評価は相当です。
改善のた	さまざまなケースに対する対応する体制を継続してください。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	めの提言	
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。	
年度目標	通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。	
達成指標	広報活動実施報告。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍にもかかわらず、全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加した。
	改善策	合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供できるのか検討を進める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	合同入学説明会に複数回参加できており、合わせて社会人のニーズの把握に努めて今後の検討の必要性も認識できている点からも評価は相当と思われます。
	改善のための提言	社会人の学び直しは、学生の生涯学習のニーズが高いことと密接に関連しますので、経済学科として今後どのように対応していくのかを、通信教育協会の場などを通じて他大の情報得ながら、考えていくと良いです。
【重点目標】 カリキュラムツリーやマップの学生への認知度の向上を目指す。		
【目標を達成するための施策等】 カリキュラムツリーやマップに関する学習ガイダンス等での学生への周知を行い、学生の履修計画作成時の活用を促す。		
【年度目標達成状況総括】 重点目標のカリキュラムマップ・ツリーの学生への認知度向上に関しては、新入生学習ガイダンス（教員講演）において、学生の履修計画作成への助言にカリキュラムマップを部分的に用いることができた。来年度以降、新入生学習ガイダンス（教員講演）を初年次教育の柱として内容の拡充を図るため、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを網羅的に用いた履修計画作成への助言が可能になると思われる。しかし、カリキュラムマップ・ツリーの2年生以上の学生の履修に活用させるための工夫は必要と思われる。一方、メディアスクーリングの授業を1科目新規に開講できたが、既存の科目の退職または退任による担当者の補充、担当者不在の科目の新規担当者の充当にかなり労力を割かれ、次年度以降のメディアスクーリング科目の拡充は十分でなかったかもしれない。		

IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
年度目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

達成指標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
年度目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
達成指標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
年度目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
達成指標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	継続的な学習推進。
年度目標	継続的な学習推進。
達成指標	継続的な学習推進。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
達成指標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
年度目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
達成指標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
年度目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他2名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
達成指標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他3名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
年度目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
達成指標	通信教育課程専任の教員が不在である問題について検討
評価基準	学生支援
中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
年度目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
達成指標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
年度目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）
【重点目標】 生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。 【目標を達成するための施策等】 メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）	

【大学評価総評】

学生への個別対応を十分に提供していく体制を安定的に維持するために、通信教育課程に専任教員を置くことを検討すべきという 2022 年度の大学評価委員会教学部会からの検討事案について経済学部経済学科通信教育課程もその必要性を認識するという記載があった点に関して通信教育課程全体の課題として提起したい。経済学部経済学科通信教育課程の自己点検・評価につき、各点検・評価項目における現状は、根拠資料をもとに概ね適正に確認されている。2022 年度中期目標・年度目標達成状況は、教授会執行部と質保証委員会によって適切に点検・評価が行われ、教授会にて共有されていることが伺われる。カリキュラムツリーやマップの学生への認知度の向上を目指すという年度目標と目標達成のための取り組みと改善すべき点が適切に記載されていると評価でき、これにより学生の計画的で効果的な履修につながることを期待する。2023 年度目標も、2022-2025 年度の中期目標を踏まえながら策定されており、2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書の内容と整合性があると判断される。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023 年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。